

国語 第1学年 ともだちとはなして、おはなしを かこう

検討会の想定問答

指摘 1：ねらいが曖昧ではないか。この単元で何を身に付けさせたいのか。

返し：話すこと・聞くことの中心はA(1)オの、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話すこと、書くことの中心はB(1)オの「文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること」。本時はA(1)オに絞り、相手の言ったことを受けて返せたかを見る。

指摘 2：評価規準は何か。どこで見るのか。

返し：3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第4時、②は第5時のノート、思考・判断・表現①は第3時の行動観察とメモ、②は第6時の付箋と振り返り、態度①は第1時の発言、第5時の見直し、第6時の振り返りで見る。

指摘 3：言語活動は何か。

返し：話すこと・聞くことはA(2)イの「尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動」で、ペアで動物になって話す。書くことはB(2)ウの「簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動」で、話したことを基にお話を書く。

指摘 4：話がつながっているかを、どう見取るのか。全員を見られるのか。

返し：本時は、相手の言葉を受けた返しが一回でもあったかを見る。全員を一度に見るのは難しいので、本時は見る子を先に決めておき、残りの子は第3時のメモと、第4時に書いたお話の会話が相手の話を受けているかを見る。メモに相手の言ったことと自分の返しが並んでいれば、つないだと見てよい。

指摘 5：個に応じた指導はどうするのか。

返し：言葉が出ない子には、つなぐ言い方の短冊を選ばせ、先生が相手役になる。書くのが苦手な子には、メモの吹き出しをかぎで囲んで文にする手順を示す。話すのが苦手な子は、聞き返すのが得意な子と組ませる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 6：ICTは使わないのか。

返し：ペアの話を端末で録音し、聞き返して、相手の話を受けた所を見付けることができる。書いたお話を写真に撮って大型画面に映せば、かぎの使い方を全員で確かめられる。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。端末が無ければ、先生が前で一組の話を再現して確かめる。

指摘 7：話すことと書くことを一つの単元にする理由は。

返し：先に友達と話して決めておくので、1年生でも書く内容を思い付きやすい。話すこと・聞くことは第3の1(4)で第1学年及び第2学年は年間35単位時間程度、書くことは第3の1(5)で年間100単位時間程度とされ、その一部をこの単元に当てている。第3の1(1)の「単元など内容や時間のまとまりを見通して」にも沿う。

指摘 8：教科書の手引きどおりでいいのか。独自性はあるのか。

返し：手引きは指導事項に沿って作られているので外す理由はない。この指導案は指導事項から組んであり、教材を替えても使える。独自の所は、つながる話とつながらない話の二つの見本を比べさせることと、話したことを絵と短い言葉のメモに残して書く時間の材料にすること。

指摘 9：6時間で書き上げられるか。時間が足りない。

返し：6時間は光村図書の年間指導計画例の配当（話すこと・聞くこと2時間・書くこと4時間）に合わせた。書く時間が足りない子には、お話の長さを決めず、会話を二回続けるところまでを目安にする。第3の1(7)にあるとおり、生活科などで動物について話す時間と関連させてもよい。配当は年間指導計画に合わせる。

指摘 10：発問が多すぎないか。

返し：本時の中心は「相手の言ったことを受けて、次の話をしよう」の一つ。導入の問いは見本を比べるため、展開の問いは別のペアの話からつなぎ方を見付けるためで、どちらも中心の活動のための手順。全体にはめあてとつなぐ言い方の短冊だけを示す。

指摘 11：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第1学年及び第2学年〕2内容 A話すこと・聞くこと(1)オと(2)イ、B書くこと(1)オと(2)ウ、〔知識及び技能〕(1)ウ・カ、学年の目標(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

